



No. 2976

第3294回例会
平成24年4月11日DISTRICT 2500
OBIHRO
ROTARY CLUB2011-12年度
国際ロータリーのテーマ

Reach Within to Embrace Humanity

こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

方針

ロータリーを学び
共に楽しもう

会長 加藤 維利

出席
報告

3月28日例会

会員総数90名（内免除会員8名）

欠席者22名（出免3名）

出席者数 56名

マークアップ 12名

90(名)

■プログラム

広報委員会

「地元から情報発信することの意義と価値」
～雑誌づくりを通じて感じる～

高原 淳 会員

本日は日頃雑誌作りを行っている立場から、広報の大切さについて話してみたいと思っています。

私どもの会社はフリーマガジンの「月刊しゅん」や雑誌「スロウ」「keran keran（ケランケラン）」といった媒体を発行しています。ムック本や単行本の制作も積極的に行っており、情報発信によって地域に良い影響を与えたいと考えている会社です。

その考えの大元となっているのは、「これから20年かかって世の中の価値観が大転換する」という時代認識です。日本は何度か大転換期を経て今日に至っています。近現代では、幕末から明治にかけてと、世界恐慌から第二次大戦を経て高度成長期に至るまでの期間が転換期に相当します。それぞれの転換期に要した年月は、およそ40年。

現在はどうかというと、バブル崩壊から今日まで約20年。昨年の東日本大震災が40年の転換期の中間地点に位置します。そして、これからの20年間で世の中は劇的に変わっていくのではないかと…。僕はそう考えています。20年後にはまったく違った世界になっているでしょうから、これからの2年、3年をどのように過ごしていくのが非常に重要なのではないかと思います。

今起こっていることは何なのか、情報発信の点から整理してみましょう。ひとつには、情報発信が「東京→地方」だったものが、「地元→地元」に変わりつつあるということです。地方発の出版物が増えています。これからは「ローカルな情報をグローバルに伝えていく」ことが鍵となるはずです。

もうひとつは「情報発信は情報のプロが行うもの」という概念が崩れてきたこと。誰でも情報発信できる時代になってきたのです。デジタル技術によって印刷が身近になりましたし、webやSNSをはじめ、新たなコミュニケーションツールが次々と誕生しています。これからは「超素人」の時代になっていくのではないのでしょうか。超素人とはド素人という意味ではなく、「豊かな感性によってプロを超えた情報発信力を持つ素人」ということです。

つまり、情報発信において「中央と地方」、「プロと素人」の格差はなくなりつつあるということ。あとは「コンテンツが魅力的かどうか」という問題になってくるんですね。

これからは「満足」という概念を超えることが重要なのだと思います。顧客満足・社員満足を追求する。これは大事なことはありますが、今、多くの企業は満足を与え続けることに慢性的な疲労感を感じています。そして、顧客も社員も満足以上のものを求め始めている。それは何かというと、「エンゲージメント」です。これからのキーワードはエンゲージメント（愛着心）になっていくものと思われます。自社への愛着心が高まれば皆

が自発的に行動し、チーム一丸となる強固な組織に変わっていく。顧客が自社への愛着心を持てば、「一緒にいい商品・サービスを育てていこう」というブランド共同所有者のようになっていく。強い愛着心によって、自分の会社や自分の住む町を守っていく、より素晴らしいものにしていく…という時代に向かっているのです。大震災後の「絆」という言葉がその方向性をよく表していると思います。

エンゲージメントレベルを高めていくためには、3つの方法があると思います。ひとつは「共通体験を通じて場の力を高める」こと。イベント、ボランティア活動、コミュニティの運営、飲み会…といった、事業活動とは直接関係ないと思われることが重要になってくるでしょう。

ふたつめは「自社の理念・伝統・価値観」を繰り返し伝え続けること。ここで重要なのは広報活動です。当社では社内報、社外報、ニュースレター、メルマガ、web、フェイスブック、講演会、セミナー、出版…といった形でさまざまなツールを活用しています。これは社内向けにもお客様向けにも必要なことです。

三つ目は「社内では伝説・エピソードを語り継ぐ、新たにつくる」ということ。今、売れる商品の条件のひとつとして「ストーリー性のある商品」というものがあります。会社にもストーリー性が求められています。ユニークなエピソードや伝説的な逆転劇のようなものを語ることによって自社へのロイヤリティが高まっていくものです。

情報の一極集中時代は間もなく終わりを迎えます。いよいよ北海道文化が開花するビッグチャンスなのではないかと、僕はわくわくしています。そのためには「地元の魅力を最大化すること」と「地元から魅力的な情報を発信すること」が今求められています。

当社は印刷会社なので、文字や写真を使った情報発信を行っていますが、皆様のご商売の中で扱っている商品そのものが情報発信ツールなのだとすることもできます。ぜひ、この70年ぶりのビッグチャンスを手にするために、地域で連携し合いながらエンゲージメントレベルを高め、より魅力的な十勝・北海道へと発展させていきましょう。

■会長報告

加藤 維利 会長



4月に入りいよいよ入学式の時期になってきました。9日に小学校、中学校の入学式があり、体の半分以上の大きさのランドセルを背負った、新1年生が元気いっぱいに通学路を歩く姿を見ると、つい自分の娘たちが幼かった頃を思い出します。

さて、昨年10月の第4例会でロータリーの草創期、すなわち1906年1月のシカゴクラブの定款の目的、「親睦の充実」と「相互扶助」から、1907年のシカゴ市内における、公衆便所設置が初めての社会奉仕活動となった頃の話をしました。その後シェルドンが「最もよく奉仕する者、最も多く報われる」というスローガンを発表し、職業奉仕の考えがロータリークラブに浸

透してゆきます。

この職業奉仕の考えをロータリアンの事業所に適用しようとして11章の道德律を作成しました。この道德律は1915年のサンフランシスコ大会において採択され公式な道德律として、1916年に全会員に配布されました。

1920年から1930年までの10年間は、ロータリーの職業奉仕が社会に大きな影響を与えた良い時期でもありました。

しかし、1922年頃から奉仕活動について、職業奉仕派と社会奉仕派の間で大きな論争がおこりました。職業奉仕派の人たちは、こう主張しました。

本質的なロータリー活動は職業奉仕であり、利益の適正配分、職業倫理の高揚、自己改善、理念提唱、個人奉仕である。社会奉仕派の人たちは、弱者に涙することが人間の道であり、人道主義的活動、実践活動が重要で、金銭の奉仕、団体奉仕もやむを得ないとなり、ロータリーは危機的な状態になりました。

このときの理事会は迷走しました。各ロータリークラブからの決議の提案を巡り、二転三転しています。1923年のセントルイス大会において、その事態を收拾するために出された決議が23-34でした。

第1条は ロータリーの哲学の定義

第2条は ロータリークラブの役割

第3条は RIの役割

第4条は 実践哲学の定義

第5条は クラブの自治権

第6条は 社会奉仕活動実践の指針

となっています。

一時この決議23-34は過去のものとして、「手続き要覧」からも「ロータリー章典」からも削除しようという事態になりましたが、当時の日本のRI理事の努力により、これまで通りの記載になっています。

特に第1条と第2条は私自身がロータリーを理解する上でのひとつの行動指針となりました。ここに書かれている、社会奉仕の哲学と職業奉仕の哲学はロータリーの本質であります。今一度この理念を考えロータリー運動の質を高めて行くことをお願いしまして、本日の会長報告とさせていただきます。

■ゲスト紹介

米山記念奨学生 MYO THURA ZAW (ミョー・トゥラゾー) 様



■会務報告

和田 賢二 幹事

(1)帯広RC、花見夜間例会開催のご案内

日 時 5月9日(水)午後6時

場 所 ホテル日航ノースランド帯広

(2)帯広南RC、創立記念夜間例会開催のご案内

日 時 4月23日(月)午後6時30分

場 所 北海道ホテル

(3)帯広西RC、夜間移動例会開催のご案内

日 時 4月26日(木)午後6時30分

場 所 北海道ホテル

(4)帯広北RC・帯広東RC・音更RC、3RC合同例会開催のご案内

日 時 4月27日(金)午後0時30分

場 所 ホテル日航ノースランド帯広

※尚、帯広東RCは、4月24日(火)の繰下げ例会と致します。

(5)・帯広南RC、4月30日(月)の例会は、祝日のため休会と致します。

・帯広東RC、5月1日(火)の例会は、休会と致します。

・帯広RC、5月2日(水)の例会は、休会と致します。

・帯広西RC、5月3日(木)の例会は、祝日のため休会と致します。

・帯広北RC、5月4日(金)の例会は、祝日のため休会と致します。

■委員会報告

・マルチプル・ポールハリスフェロー ロータリー財団委員会

野村 文吾 会員



・出席報告

五十嵐 聖二 出席委員

4/11例会の報告 会員総数88名 内免除会員8名 出席者数63名

3/28例会の報告 メークアップを含む出席者数68名 出席率78.2%

・ニコニコ献金

親睦活動副委員会

田中 弘 会員

この程体調をこわし、一週間入院治療致しました。もう2~3年ロータリアンとしてがんばります。よろしく。

加藤 維利 会員

ビートルズ世代のためレコードしかなく、最近では曲も聞いていませんでしたが、無性に聞きたくなりCDを5枚程購入しました。やっぱりよい！

新田 潔 会員

テーブル全員出席です。4月5日のテレビショッピングでもクラブが完売できました。

讃岐 武史 会員

皆さんお待たせしました。突然の春の降雪でオープンを先延ばしにしましたが、本日、帯広カントリークラブは営業を開始しました。今年も数多くの帯広ロータリークラブ会員の入場をお待ちしておりますので、よろしくお願いします。

讃岐 武史 会員

地区の米山事業を永年務めてきましたが、未だ米山カウンセラーをやっていないのがバレー、今回ミヨウさんのお世話をさせていただきます。どうぞ1年半よろしくお願いします。

安岡 美樹夫 会員

本日、例会を担当いたします。

高原 淳 会員

本日卓話をさせていただきます。

■ご結婚祝い

三浦 輝世典 会員

■次週プログラム

4月18日(水)「新入会員卓話」三浦輝世典 会員

「温暖化と食糧危機」曾我 彰夫 会員 (プログラム委員会)

ロータリー情報

ロータリークラブの広報

広報委員会の第一の責務は、地域社会でクラブの奉仕プロジェクトや活動に対する認識を高めると同時に、ロータリーの価値観や功績についても伝えることです。地域社会の人々はメディアやほかの人から聞いた評判を通じてロータリーについて知ることになるということを踏まえ、効果的な広報活動を行うには、クラブの取り組みについてクラブ会員とメディアに情報を提供することが不可欠です。

年度前に委員会ではブレインストーミング(自由な意見の出し合い)を行い、新年度にそれらを実行する計画を立てます。ロータリーを効果的に推進するには、ほかのロータリアンと協力し、広報の構成要素を理解し、ロータリーの重要なメッセージは何かを知った上でこれを使えるようにする必要があります。〔クラブ広報委員会の手引き〕より)



↑携帯サイトができました。
バーコードリーダーで読み込む事ができます。

例 会 日/水曜日 12:30~13:30
例会会場/ホテル日航ノースランド帯広
TEL0155-24-1234

●創 立/昭和10年3月15日 ●認証番号/3820

●戦後再開/昭和25年12月19日

事務局/帯広市西3条南9丁目 経済センタービル4F
TEL0155-25-7347 FAX0155-28-6033

●発 行/クラブ広報

●委 員 長/安岡美樹夫

高原 淳・田守 由宗・北野 宏明

堀江 威光・辺見 京一・加藤 敏紀

●ホームページアドレス/http://www.obihiro-rc.jp